

棋苑囲碁ブックス

六段突破！

PART I

中国流布石理論

九段

劉ユ

昌チャン
赫ヒョク

棋苑図書

はじめに

碁を打つ人なら誰でも今の実力より上にいきたいと願っているはずですが。

勝ったり負けたりするライバルがいると、その願いは一層強まるでしょう。

多くの囲碁ファンが、そんな要求を満たすために囲碁専門書やその他いろいろな方法で、碁の勉強に励んでいるはずですが、自分の弱いところを強化するために定石や石の形を学び、手筋や死活などを習得しながら、自分の実力が伸びたことを実感したことでしょう。

囲碁は布石、定石、形勢判断、死活、手筋、ヨセなど、たくさん要素から構成されるゲームです。はじめのうちには、その多様な要素のどれか一つ、二つでも習得して実戦で試せば、すぐに良い成績があげられたはずですが。

ところが、棋力が高くなればなるほど、特定分野の一つや二つ強くても、決して良い成績にはつながりません。その理由は为什么呢？ それは、有段者レベルになるには、ある特定の分野だけでなく、囲碁の全ての分野においてまんべんなく基本の実力を持っていないとまらないからです。

また、有段者にはなったもののなかなか実力が伸びず、高段者の壁が越えられないという声を多く聞きます。

本書は、そういった高段者への跳躍を夢見ている人のための囲碁シリーズです。PART

I、IIで示す布石の多様な理論は、これまでにない深い布石理論を現代に流行している布石の分析とともに整理しました。また、初・中級者が気になる変化を詳しく説明して、あらゆる棋力の方に対応していることも本書の特徴の一つです。PARTⅢで示すさまざまな手筋や死活の問題は、高段者なら誰でも習得すべき内容を整理したもので、高段者またはそれ以上の実力を夢見る方々の実力向上に役立つものと思っております。

皆様がいっまでも囲碁を愛し、棋力向上に励まれますことを心より願っております。

九段

劉^ユ

チャンヒヨク

昌赫

○もくじ●

はじめに…………… 3

索引…………… 7

○第1章 中国流の基本6型●…………… 11

第1型 中国流の基本…………… 13

第2型 下辺のヒラキの種類…………… 34

第3型 左辺に展開する作戦…………… 45

第4型 模様を広げる手段…………… 49

第5型 打たれなくなったヒラキ…………… 53

第6型 流行のシマリ…………… 60

○第2章 中国流の最新手法6型●…………… 65

第1型 黒から有力な手が開発…………… 67

第2型 中国流の最新型…………… 72

第3型 黒模様のけん制…………… 75

第4型 有力な三々…………… 83

第5型 流行の三々入り…………… 87

第6型 変形中国流…………… 101

○第3章 ミニ中国流の基本9型●…………… 105

第1型 ミニ中国流の基本…………… 107

第2型 下辺からのツメ…………… 123

第3型 積極的なツケ…………… 134

第4型 有力なカタツキ…………… 140

第5型 高いヒラキの意図…………… 144

第6型 二間にカタツキ…………… 148

第7型 二線のヒラキ…………… 151

第8型 高い二間ヒラキ…………… 157

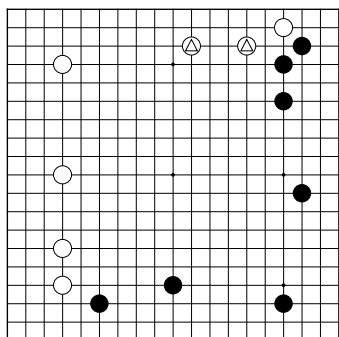
第9型 三間ヒラキ…………… 161

○ 第4章	ミニ中国流の変形3型 ●	165
	第1型	流行の変形ミニ中国流……………167
	第2型	ワリ打ちに小ゲイマ……………177
	第3型	新しい研究……………185
○ 第5章	総合問題20問 ●	197

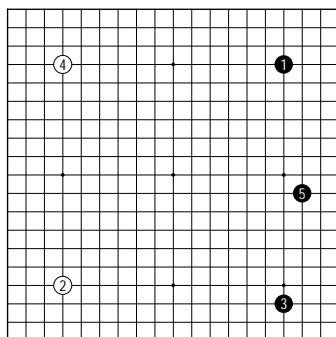
「Yuchanghyok-ui Shijeonpower 5 dan 1」
By Yu changhyok

Copyright© 2013 by Baduk TV
Originally published in Korea by Baduk TV
Japanese Translation Copyright© 2015 by Kientosho CO, LTD.
arranged through Jetticks CO, LTD.

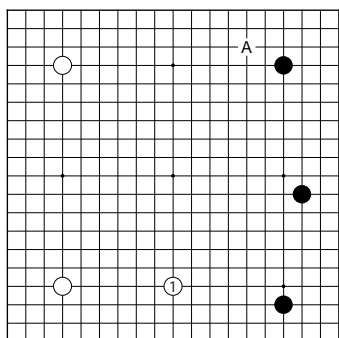
第1章 中国流の基本6型・索引



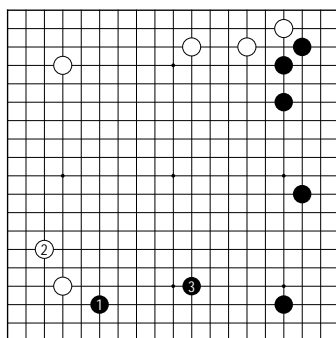
第4型 (p、49)



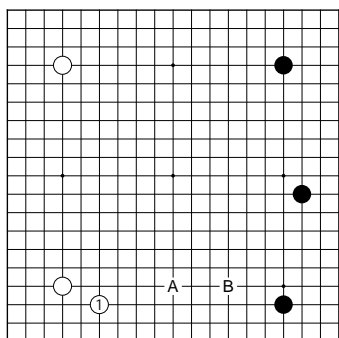
第1型 (p、13)



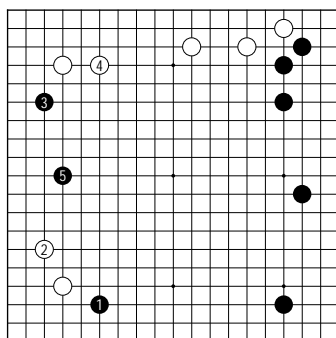
第5型 (p、53)



第2型 (p、34)

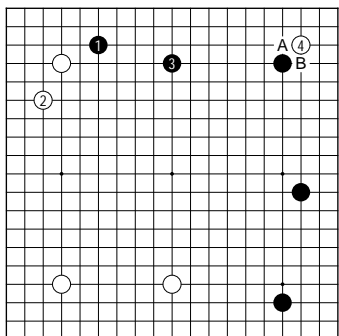


第6型 (p、60)

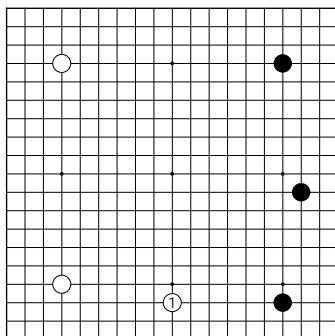


第3型 (p、45)

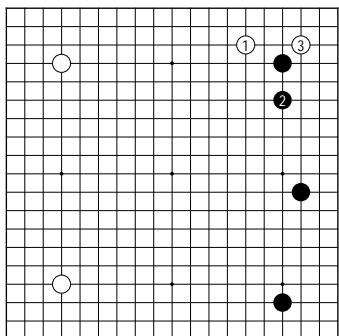
第2章 中国流の最新手法6型・索引



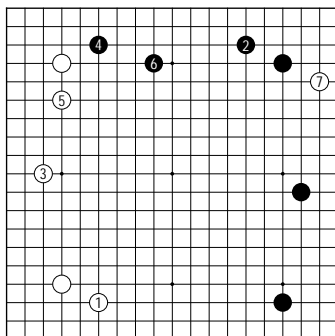
第4型 (p、83)



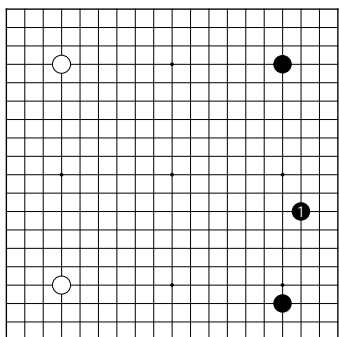
第1型 (p、67)



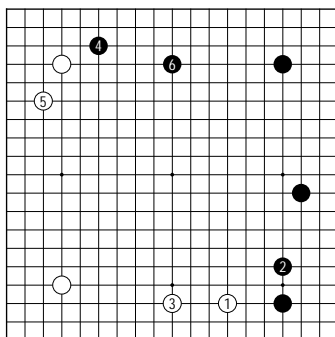
第5型 (p、87)



第2型 (p、72)

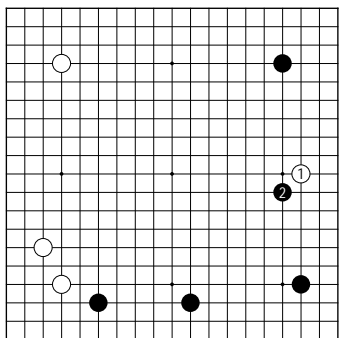


第6型 (p、101)

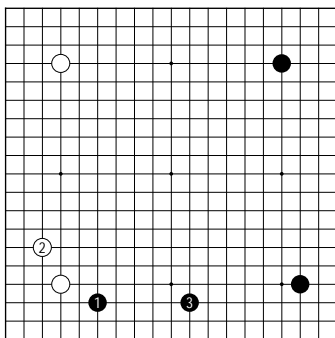


第3型 (p、75)

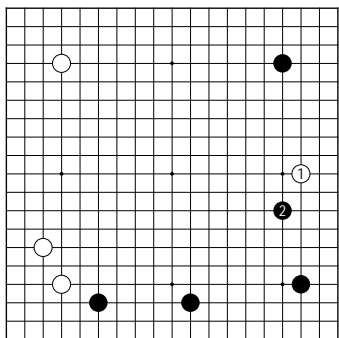
第3章 ミニ中国流の基本9型・索引



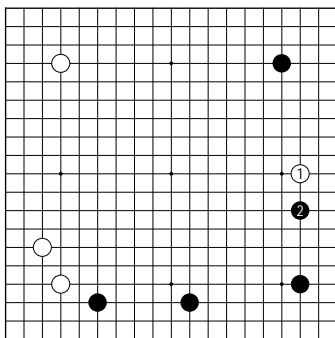
第4型 (p、140)



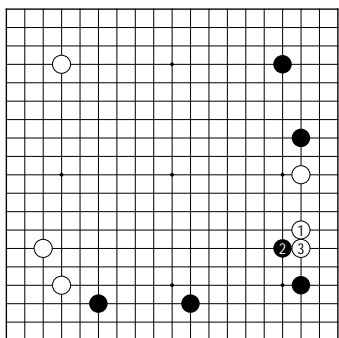
第1型 (p、107)



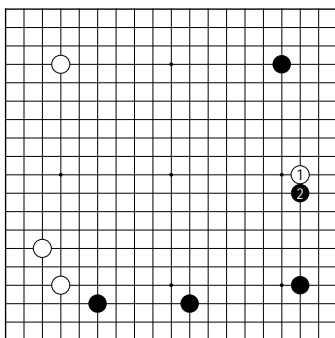
第5型 (p、144)



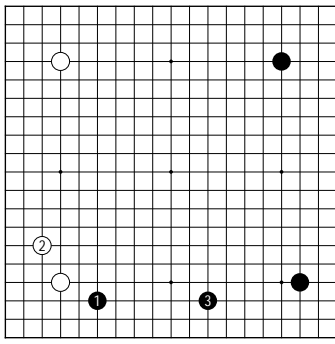
第2型 (p、123)



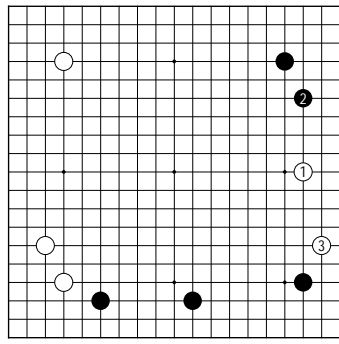
第6型 (p、148)



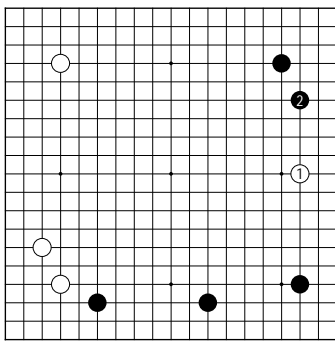
第3型 (p、134)



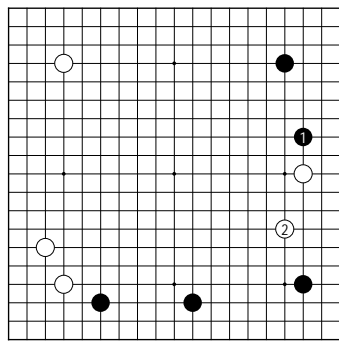
第1型 (p, 167)



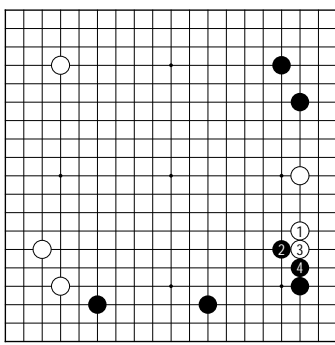
第7型 (p, 151)



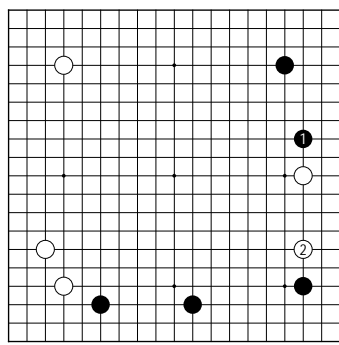
第2型 (p, 177)



第8型 (p, 157)



第3型 (p, 185)



第9型 (p, 161)

第1章 中国流の基本6型

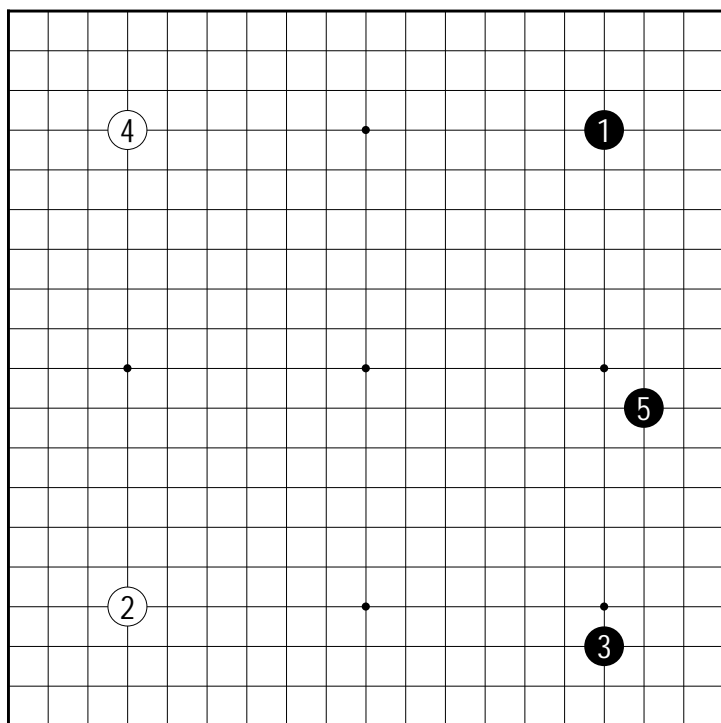
中国流の基本

第1型

黒1、3、5の中国流は、一時期大流行した布石です。

現代でも実戦によく登場し、新しい研究がどんどん進んでいます。

ここでは黒5以降の代表的な変化を見ていきます。

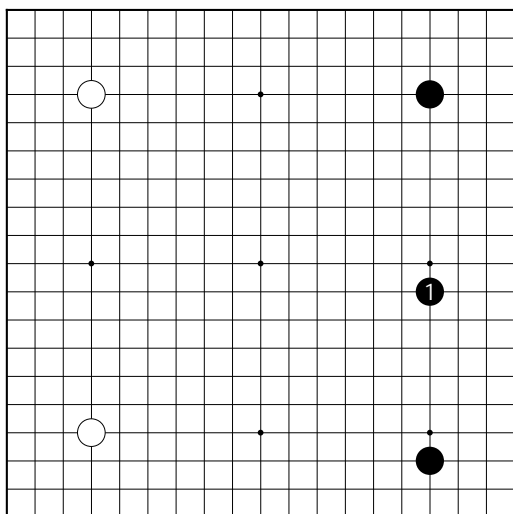


1 図 (高い中国流)

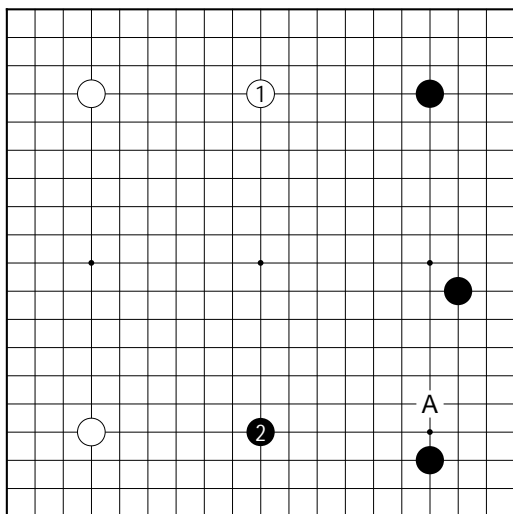
黒1は高い中国流布石です。高い中国流布石は、低い中国流布石に比べてあまり登場しません。しかし中国では、ときどき打たれることもあるようです。

2 図 (黒の作戦)

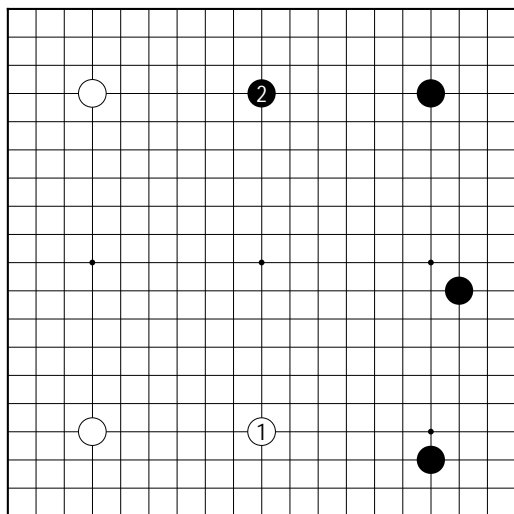
場面図に続いて白1と上辺にヒラけば、黒はAのシマリを省いて2とヒラくのが中国流布石の基本的な作戦です。



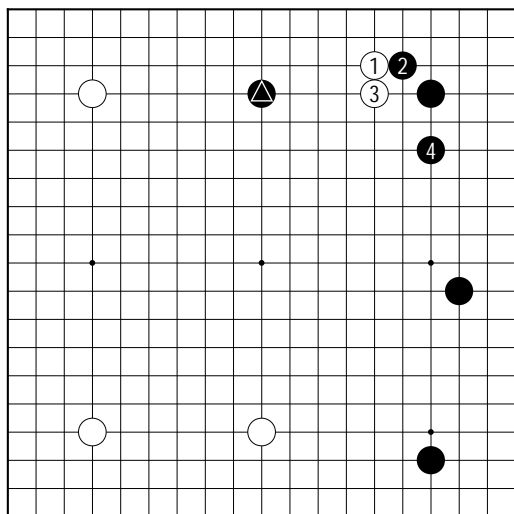
1 図



2 図



3図



4図

3図 (上辺に展開)

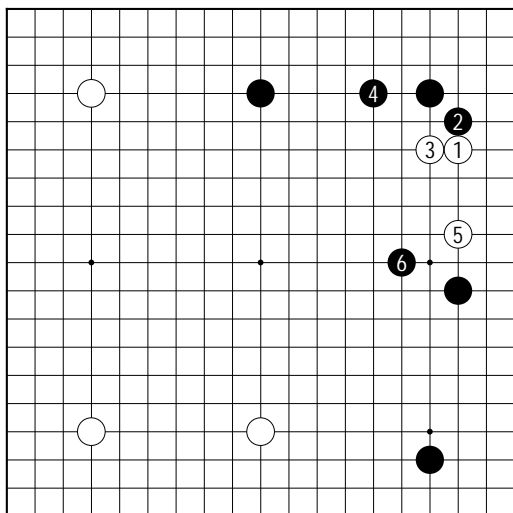
白1と下辺にヒラけば、黒2と上辺に展開します。続いて……

4図 (白、重い)

▲のヒラキに白1とカカってきたら、黒2のコスミツケが良い手です。白3、黒4の進行になると、▲が白のヒラキを阻止しています。これは白が良くありません。

5 図 (黒、好調)

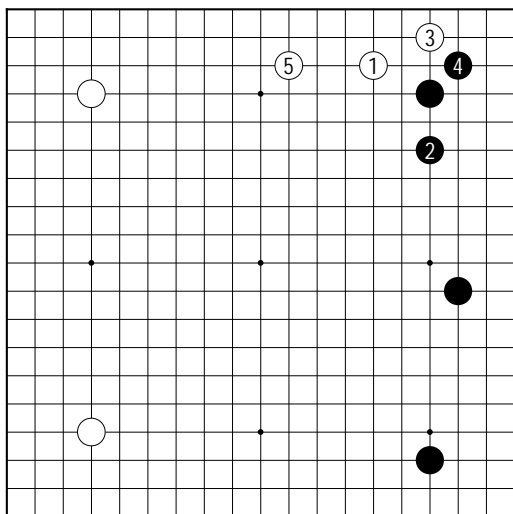
4 図の白1で1とこちらからカカられたときも、黒2、4と応じます。白5のヒラキに黒6と攻めて、黒好調の進行です。



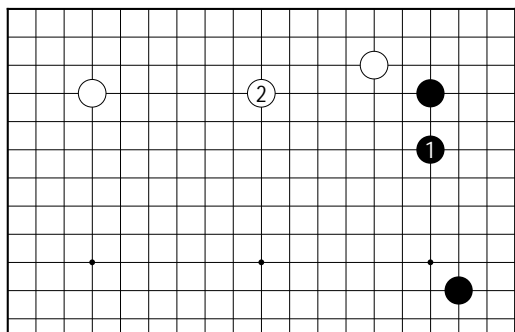
5 図

6 図 (普通)

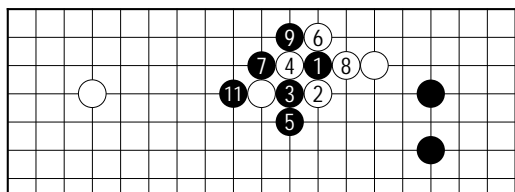
場面図に続いて、白は1とカカれば普通です。黒2の受けに、白3、5と上辺に展開すれば無難な進行です。



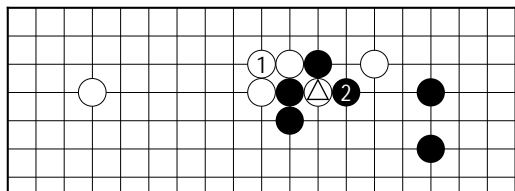
6 図



7図



8図



9図

⑩ (1)

シチヨウで取られます。この進行も白不利です。

7図 (ヒラキ)

黒1 (6図黒2) に白2とヒラく手もあります。しかし6図と比べて白の布陣に弱点が残るので、白2は最近ではあまり打たれません。

8図 (黒の狙い)

7図の白の布陣は、黒から1と打ち込む狙い

が残っています。白2のツケに黒がシチヨウ有利な場合は、黒3のワリ込みが好手。続いて白4、6とアテるのは良くありません。黒7から11と一子がシチヨウに取られては、白不利です。

9図 (白、不利)

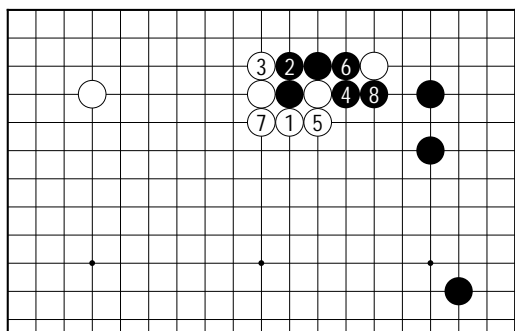
8図の白6で1とツゲのも、黒2で△一子が

10図 (白の正着)

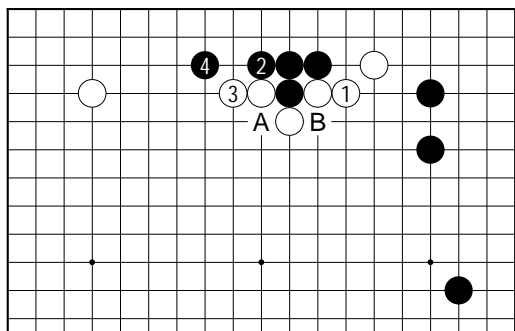
8図の白4で、白としては1とアテるのが正着です。以下黒8までで一段落。黒の実利と白の外勢のワカレになります。

11図 (弱点残り)

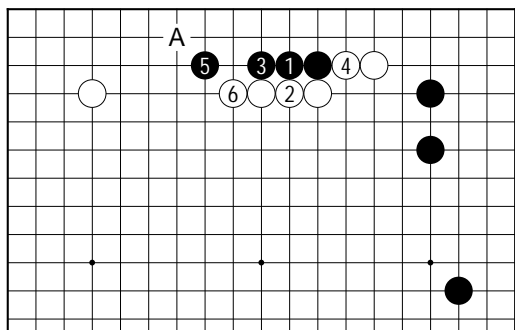
10図の白3で1とノビるのは、黒2、4と上



10図



11図

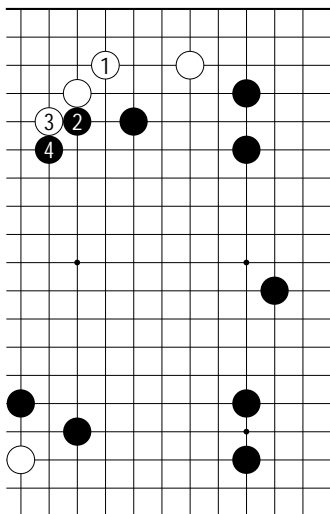


12図

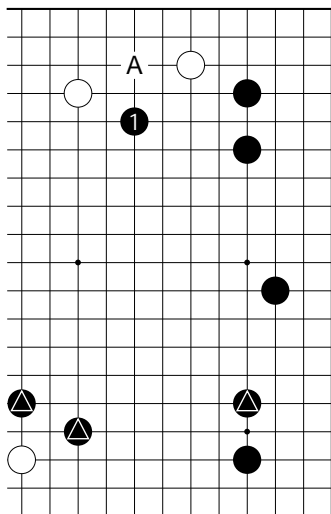
辺で安定されます。白はAとBの弱点が負担となり、面白くない進行です。

12図 (黒、消極的)

8図の黒3で1のノビは消極的な対応です。白6のあと黒はAと守るくらいですが、11図と比べて白の形に弱点がない点が黒不満です。

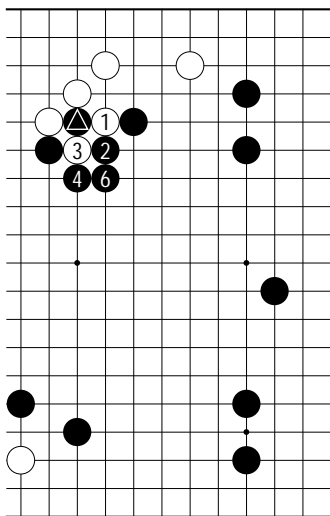


14図



13図

13図 (模様作戦)
 ▲のように石がある場合は、黒1が有力です。



15図

⑤ (▲)

黒1は模様を広げながらAの打ち込みを狙っています。続いて……

14図 (良い打ち方)
 白が上辺を守るなら、白1と受けるのが普通です。これには黒2、4のツケ二段が良い打ち方です。続いて……

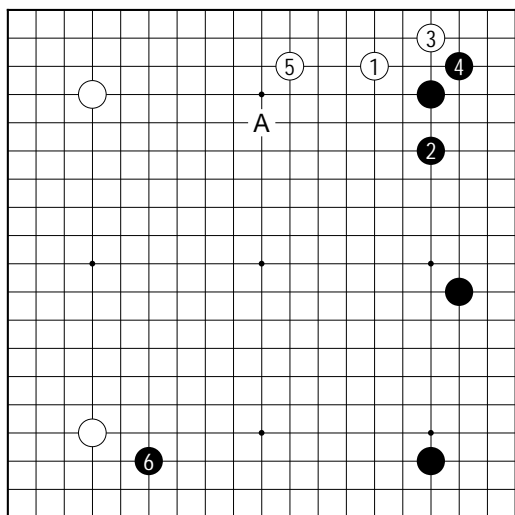
15図 (黒、厚い)
 白1のアテには黒2、4が封鎖の手筋で、黒6まで中央が厚くなります。全体の黒石が躍動しており、黒が打ちやすい局面といえます。

16図 (簡明)

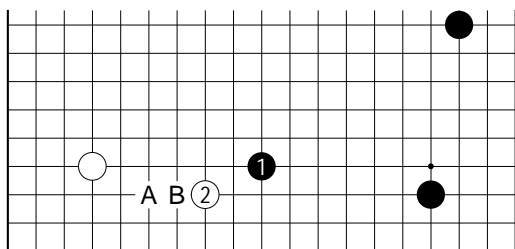
黒2の受けに白3から5とヒラけば簡明です。これには黒6とカカって下辺に展開するのが普通です。のちに黒はAと広げる手が狙いです。

17図 (絶好点)

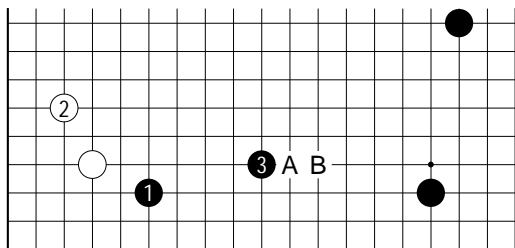
A (16図黒6) のカカリで黒1とヒラくのは、



16図



17図

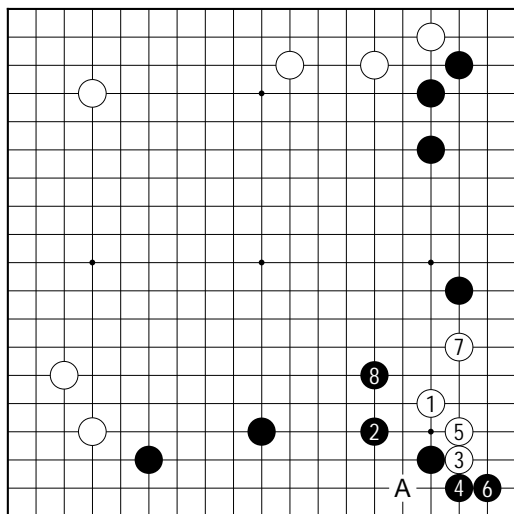


18図

白2 (またはB) が絶好点になります。そのため、黒1は現代ではやや甘いと言われています。

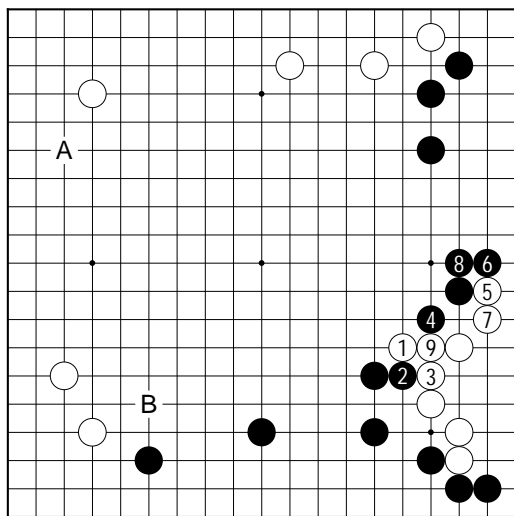
18図 (中国流の作戦)

黒1 (16図黒6) に白2と受けたとき、黒3と構えるのが中国流の基本的な作戦です。黒3でAやBに打つ手もあります (第2型で解説)。



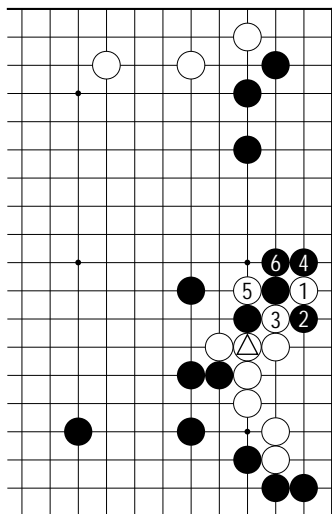
19図

19図 (定石手順)
 18図のあと、白は1のカカリが急務です。黒は2と受けるのが普通の応手。以下黒8までは定石進行です。なお、黒6でAと受けるのは緩着です。続いて……

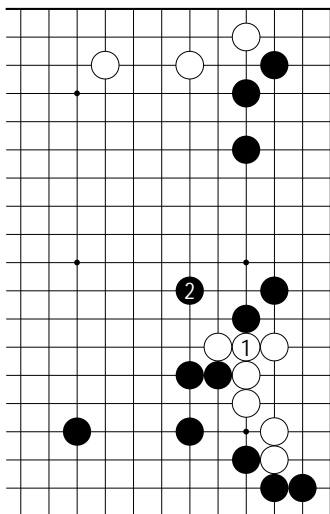


20図

20図 (定石)
 白は1と受ける一手。黒4の瞬間、白5とツケるのが好タイミングの手筋です。黒は6と受けるよりなく、以下白9までは定石進行。次に黒AやBなどの進行が予想されます。

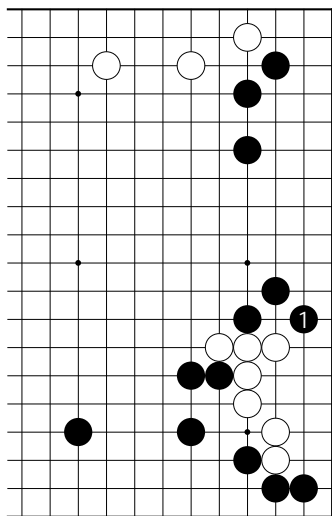


22図



21図

21図 (利かされ)
20図の白5で1とツグのは利かされ。黒2と



23図

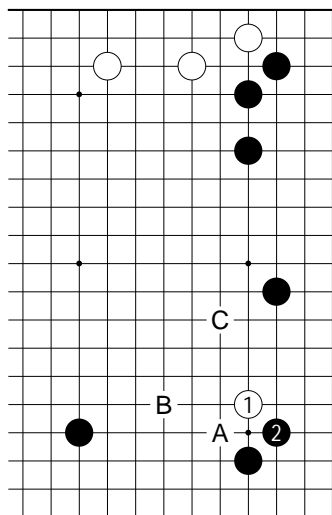
カケられて、白は窮屈な格好です。続いて……

22図 (手順前後)

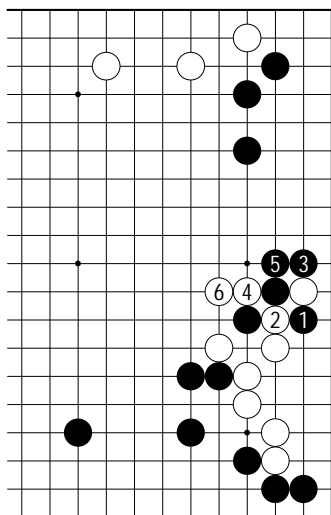
白1とツケても、黒2、4と反発されます。黒6までの進行になると、△が無駄な手になっています。

23図 (積極的)

21図の黒2では、1とコスんで積極的に打つことも可能です。これも白が気分の良くない進行です。

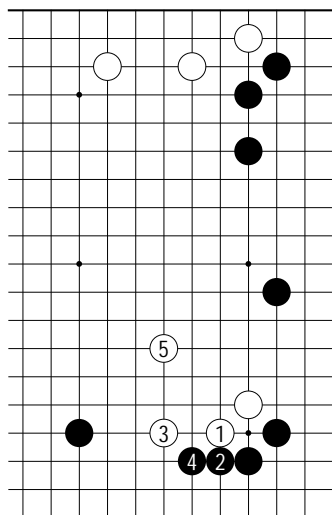


25図



24図

24図（白、満足）
20図の黒6で1、3と反発するのは良くあり

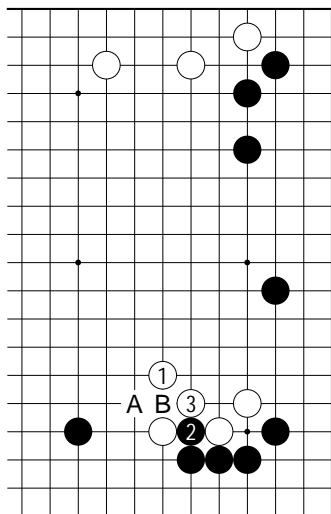


26図

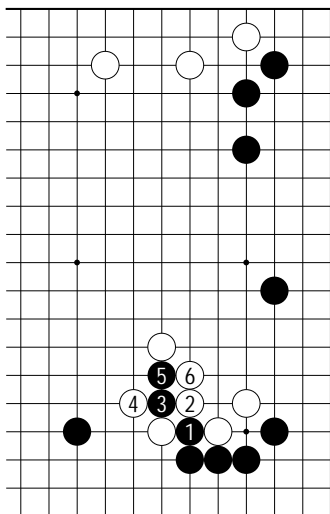
ません。白6までと厚い形を得て、白満足の結果です。

25図（根拠を奪う）
白1とカカられたとき、黒2とコスむ手もあります。黒2は白の根拠を奪って攻める意図です。白の応手としては、A〜Cが考えられます。

26図（定石）
白1（25図A）のコスミから3とトベば普通の進行です。黒4には白5と構えて一段落です。

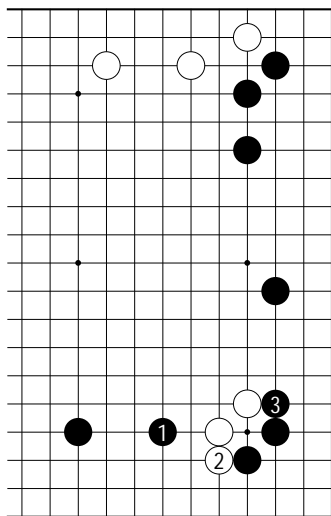


28図



27図

27図（黒、無理）
26図のあと、黒1、3と切断する手は成立し



29図

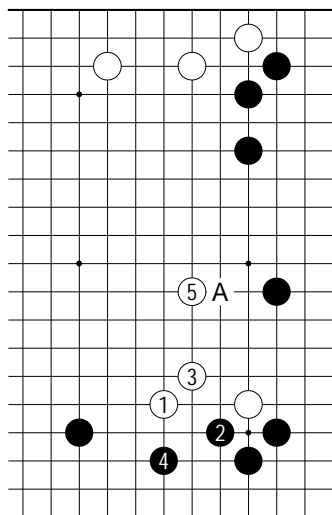
ません。白4から6とアテられて、シチヨウで黒が取られます。

28図（白、やや重い）

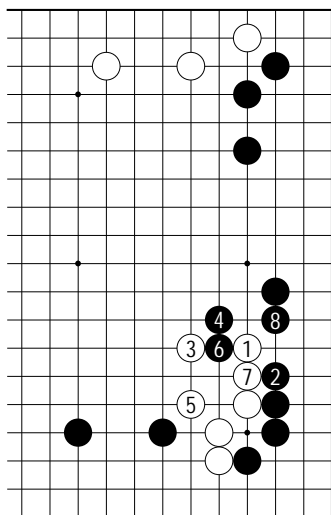
26図の白5で1のトビは、やや重い守りです。白3のあと、黒Aのノヅキに白Bとツイだとき、白は陣笠の愚形になります。

29図（黒の変化）

26図の黒2では1とツメる手もあります。白2には黒3とハッて、全体の白を攻める意図です。

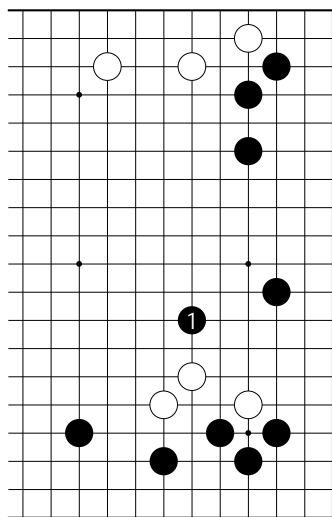


31図



30図

30図 (定石進行)
 29図に続いて白1とトビ、以下黒8までとな



32図

るのが定石進行です。

31図 (定石)

白1 (25図B) と二間にトブ手もあります。

黒2、4と受ければ普通で、白5 (またはA)

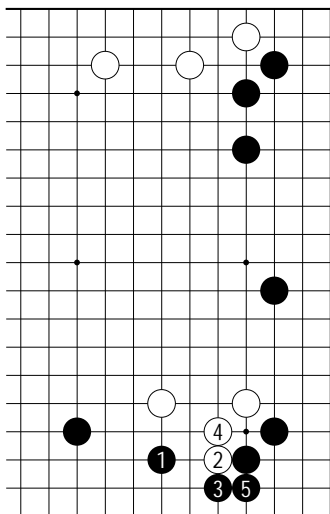
とくつろいで一段落です。

32図 (逃せぬ急所)

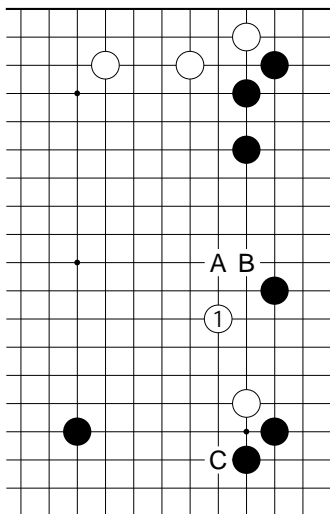
31図の白5は大事な一手です。手を抜くと黒1が絶好の急所で、白が苦しい展開になります。

33図 (黒、不満)

31図の黒2で単に1と受けるのは、すかさず



33図



34図

白2のツケを利かされます。黒は3、5と受けるくらいですが、へこまされた格好になっては黒不満です。

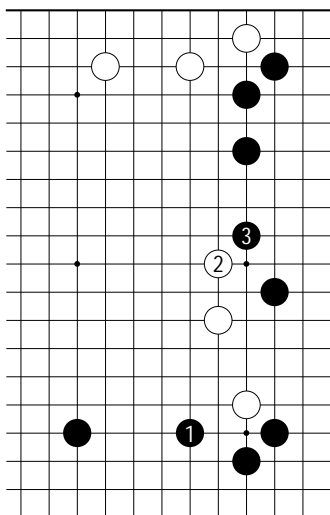
34図 (大ゲイマ)

白1 (25図C) と大ゲイマに打つ手もあります。白1は次にA〜Cの手段を見えています。

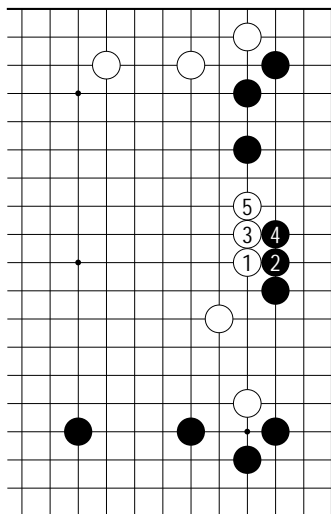
続いて……

35図 (定石進行)

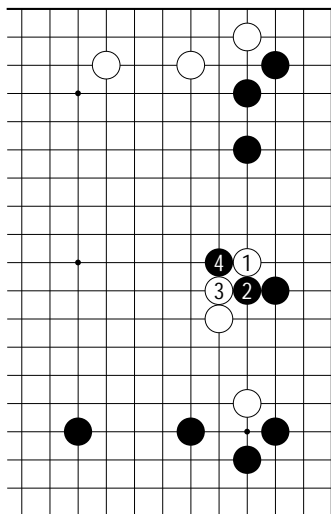
黒は1と下辺を受けます。白2とトベば簡明で、黒3までは定石進行です。



35図

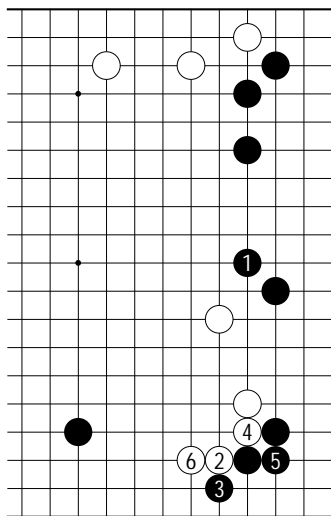


37図



36図

36図 (乱戦)
 35図の白2で1とカケると難しくなります。



38図

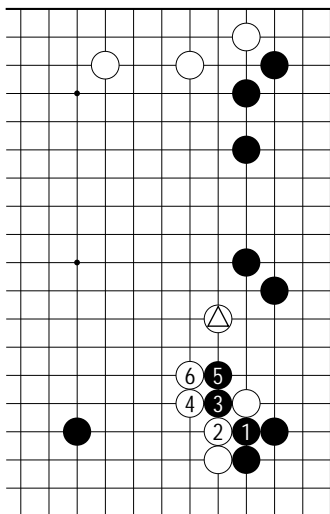
黒は2、4と出切る一手で、以降は激しい乱戦が予想されます。

37図 (黒、不満)
 白1に黒2と受けるのは白5まで三線に押し込まれてしまい、黒不満の進行です。

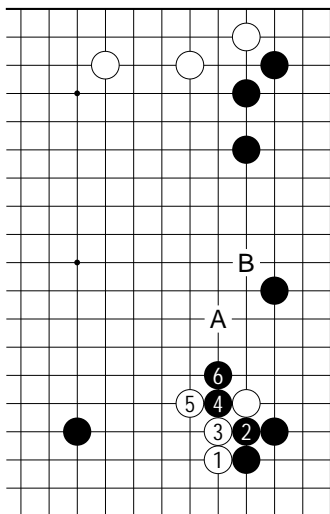
38図 (緩着)
 35図の黒1で1と右辺を受けるのは緩着です。白2のツケが絶好のサバキ筋。以下白6までと形が整っては、白が有利な結果です。

39図 (疑問の切断)

38図の黒3で、3と切断しても面白くあり



39図



40図

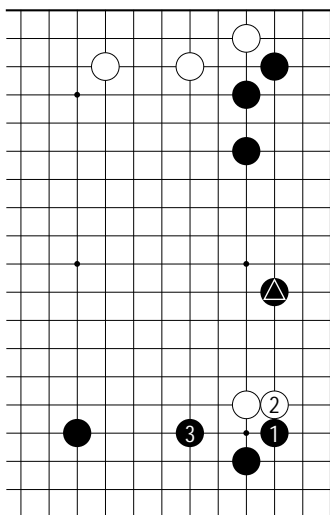
ません。白6までの進行になると、△が良いところにあります。

40図 (白、無理)

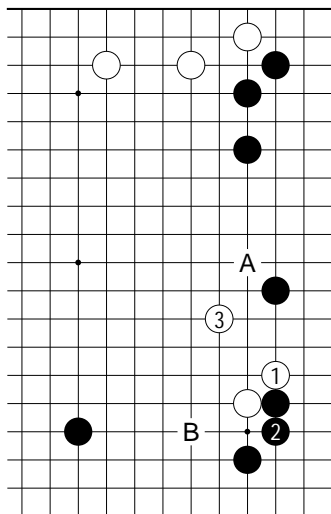
白Aと黒Bの交換がない場合だと、白1のツケは打ち過ぎです。今度は黒2、4の切断が厳しく、黒6まで白が苦しい格好になります。

41図 (白、重い)

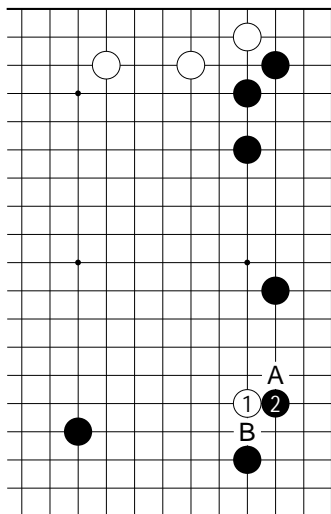
黒1に白2とオサえるのは悪手です。黒3と受けられたとき、△が白のヒラキを妨害しており、白不利な進行です。



41図

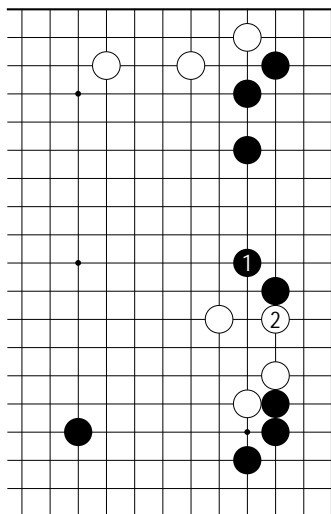


43図



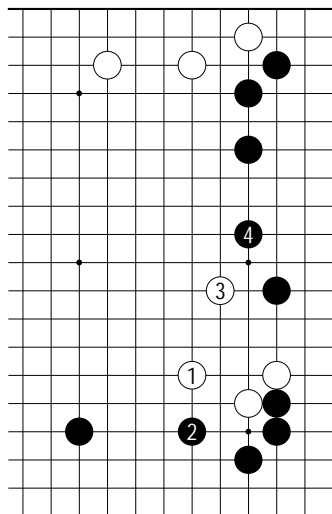
42図

42図 (ツケ)
白1のカカリに、黒2とツケる手はどうで

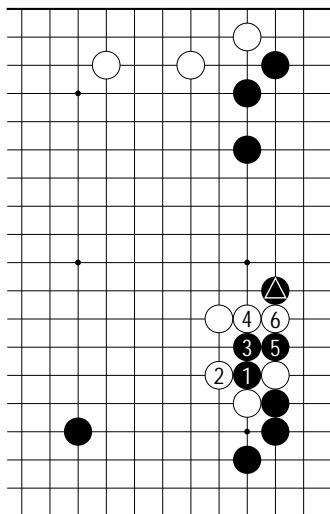


44図

しようか。白の応手はA、Bが考えられます。
43図 (軽い運び)
白は1 (42図A) のオサエから3のハザマト
ビが軽い運びです。次に、白はAとBの手段を
狙っています。
44図 (白、不満なし)
43図に続いて黒1と受ければ白2とツケて、
弾力のある形を得た白に不満はありません。

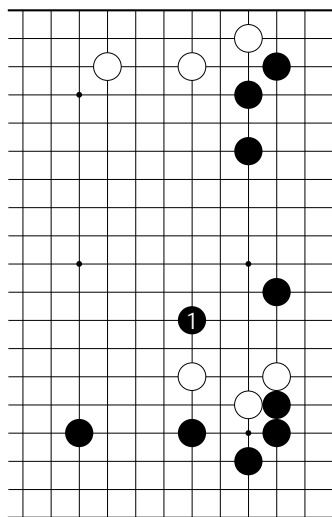


46図



45図

45図 (ハマリ形)
44図の黒1で1の切りは白の注文にはまりま

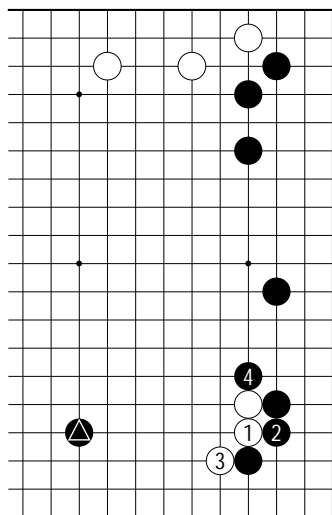


47図

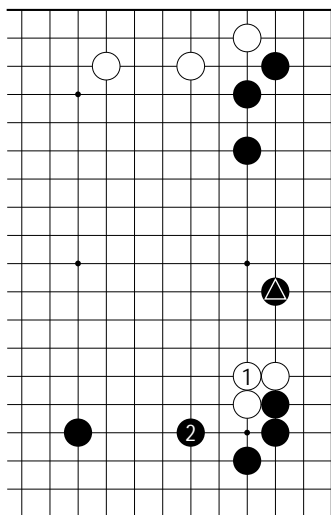
す。白2とアテて4と出るのが常用の手筋。白6まで、▲が切り離されては黒不利な結果です。
46図 (簡明)
43図の白3では、1のケイマから3とボウシする打ち方もあります。黒4まで、お互いにわかりやすい進行です。

47図 (耳の急所)

46図の白3を省くのは良くありません。黒1が厳しい「耳の急所」で、白が苦しい格好になります。

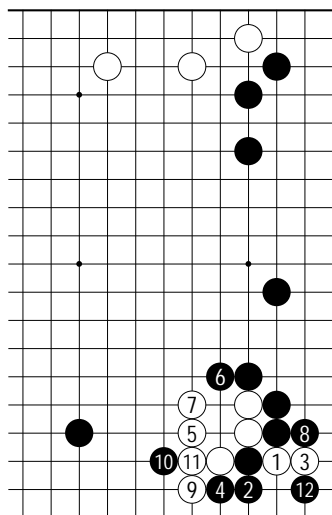


49図



48図

48図 (白、重い)
 43図の白3で1のカタツギは重く、黒2と受



50図

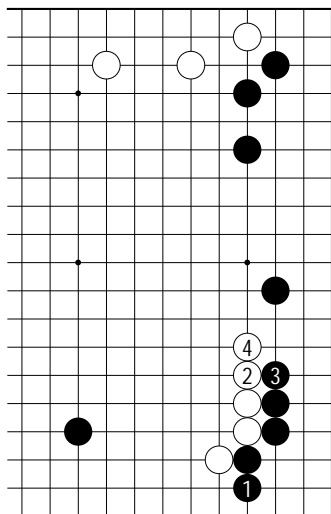
けられて良くありません。▲が白のヒラキを阻止して攻める絶好の位置にあり、白不利な進行になります。

49図 (白の変化)

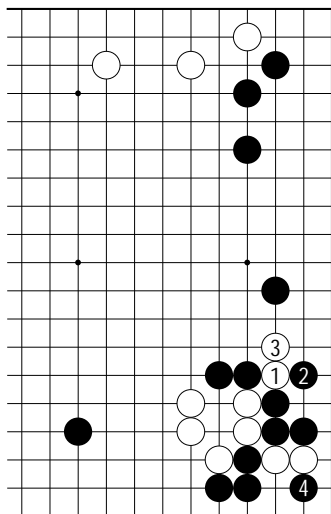
白1 (42図B)、3とナダレていくのは打ち過ぎです。▲に石が控えているため黒2、4が厳しい応手です。続いて……

50図 (白、不利)

白1以下黒12までの進行が予想されますが、白が不利な戦いです。

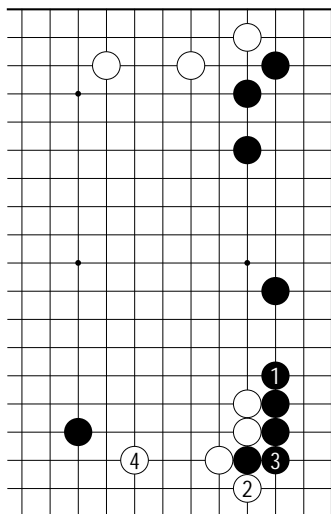


52図



51図

51図（白の変化）
50図の白9で1と切るのも、黒2、4と受け



53図

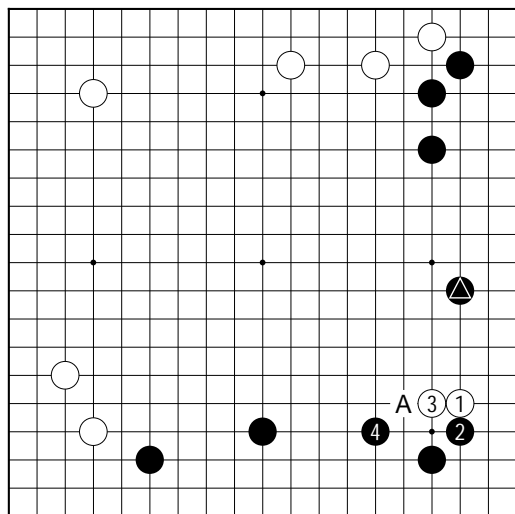
られて白が苦しい格好です。

52図（緩着）

49図の黒4で1と受けるのは緩着です。白2、4と形を整えられて、黒不十分の進行です。

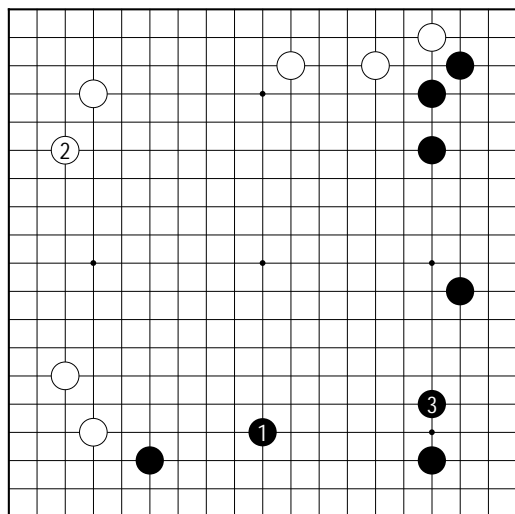
53図（黒、消極的）

49図の黒4で1とノビるのも良くありません。白2を先手に4とヒラくことができず、白満足の進行です。



54図

54図（良くないカカリ）
 白1と低くカカるのは良くありません。黒は2のコスミツケが、白の根拠を奪う好手です。白3とノビれば黒4と受けて、白は▲によってヒラキを阻止されているため、非常に苦しい格好です。白3でAとトブのも黒4と受けて、や



55図

はり黒満足です。
55図（黒、理想的）
 黒1とヒラいたとき、白が右下を放置して2などと他の大場に先行するのは、黒3とシマって黒は両翼の理想的な布陣になります。